

腸管出血性大腸菌感染症について

腸管出血性大腸菌とは、ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌による感染症です。都内では年間 300 例以上報告があり、夏に増加する傾向があります。病原体に感染すると 2～9 日ほどの潜伏期を経た後に、激しい腹痛を伴う下痢、続いて血便をおこします。乳幼児や高齢者が感染した場合は重症化しやすいといわれています。治療は水分補給に加え、下痢に対する整腸剤の使用などの対症療法が中心になります。予防のポイントは食べ物の取り扱いと正しい手指衛生です。汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品はなるべく食べきる等の注意が基本です。

【全数把握対象疾患】

類型	報告件数	備考
1 類感染症	0 件	
2 類感染症	結核 2 件	60 代 男性 1 名、70 代 男性 1 名
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 1 件	10 代 男性 1 名
4 類感染症	0 件	
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2 件 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)1 件 梅毒 1 件	70 代 男性 1 名、90 代 女性 1 名 20 代 男性 1 名 30 代 男性 1 名

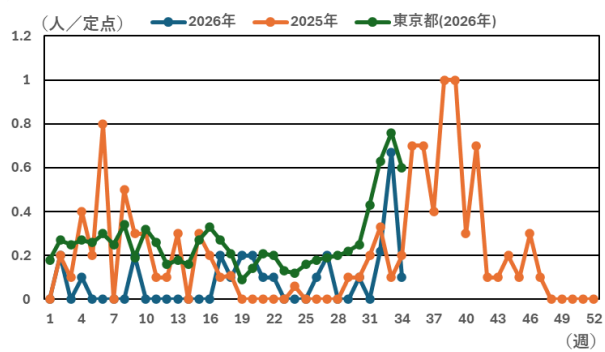
【定点把握対象疾患】

感染症	板橋区	東京都
手足口病	定点当たり報告数 0.90 (前週 1.50 前年同週 0.10)	定点当たり報告数 1.50 (前週 1.85 前年同週 0.48)
インフルエンザ	定点当たり報告数 1.40 (前週 0.27 前年同週 0.13)	定点当たり報告数 1.49 (前週 0.91 前年同週 0.28)
新型コロナウイルス感染症	定点当たり報告数 1.00 (前週 0.36 前年同週 6.53)	定点当たり報告数 0.77 (前週 0.49 前年同週 4.76)
急性呼吸器感染症 (ARI)	定点当たり報告数 26.40 (前週 16.00 前年同週 39.27)	定点当たり報告数 34.74 (前週 30.88 前年同週 41.99)

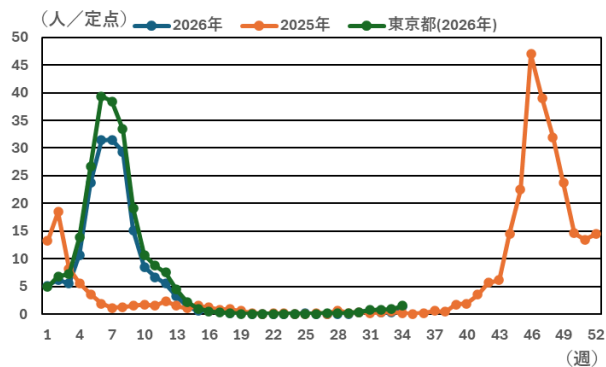
【定点把握対象疾患 推移グラフ】

週報告の定点把握対象の感染症について、定点医療機関当たりの患者報告数推移のグラフを掲載しています。

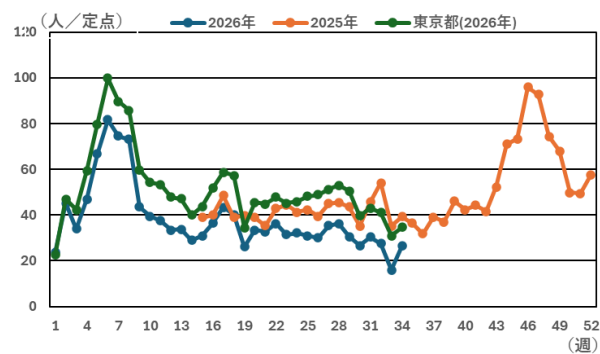
新型コロナウイルス感染症



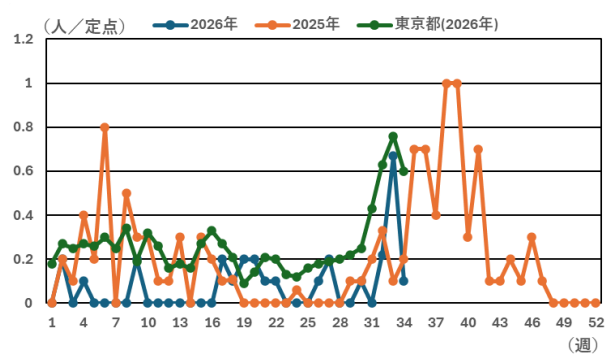
インフルエンザ



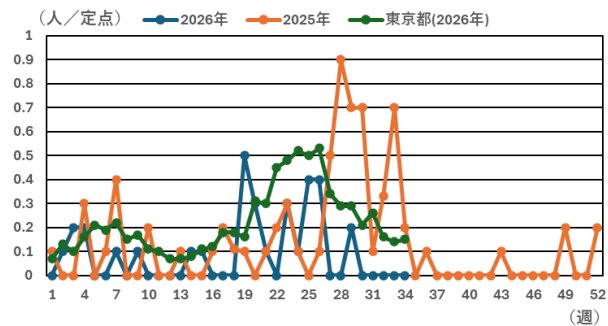
急性呼吸器感染症



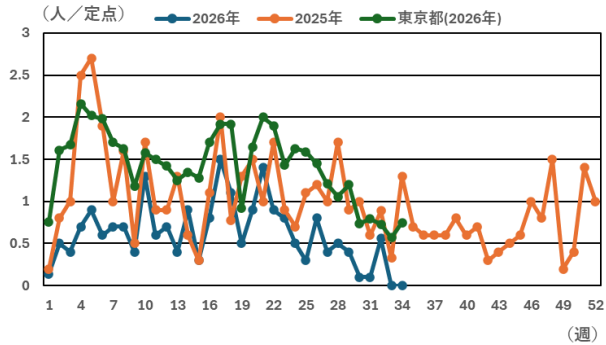
RS ウイルス感染症



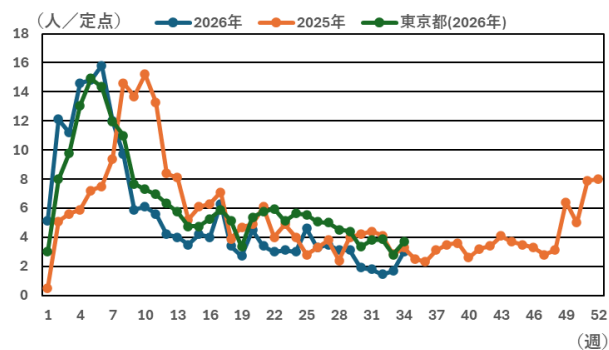
咽頭結膜熱



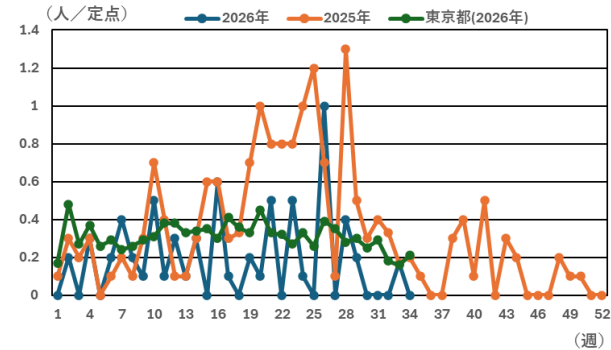
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



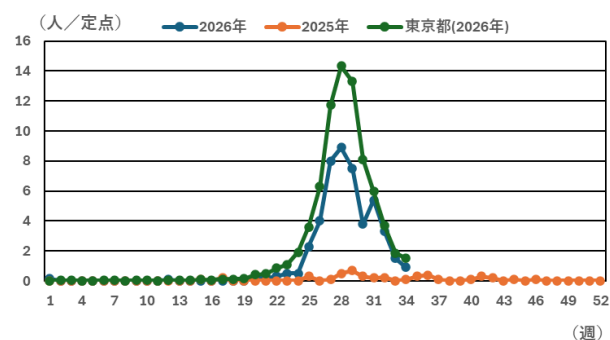
感染性胃腸炎



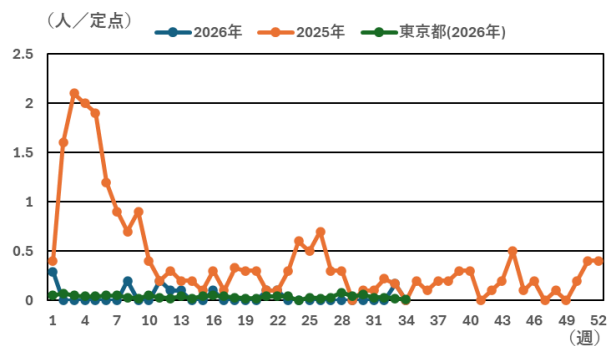
水痘



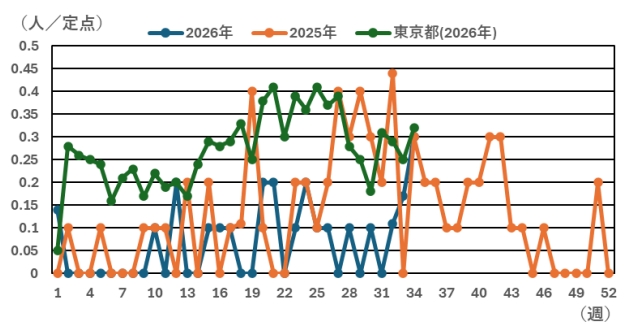
手足口病



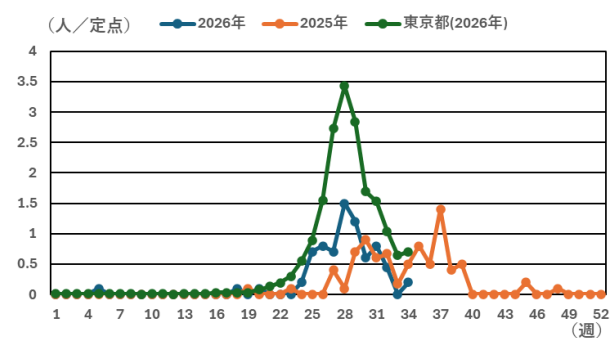
伝染性紅斑



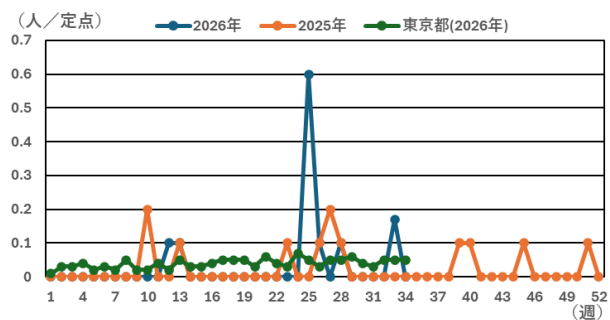
突発性発疹症



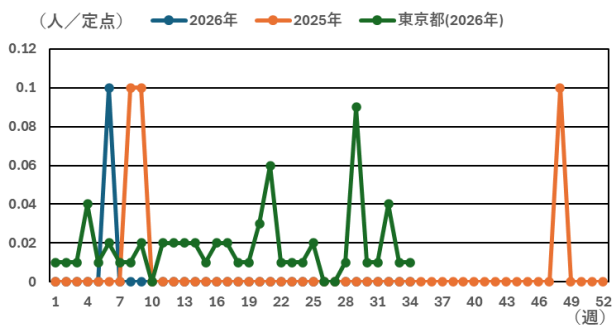
ヘルパンギーナ



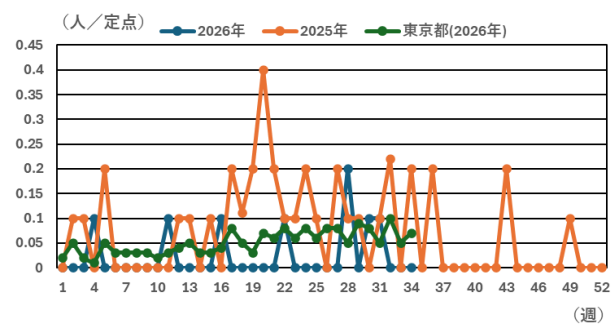
流行性耳下腺炎



川崎病



不明発しん症



【感染症集団発生状況(新規)】

RS ウイルス感染症	保育施設	1 件
手足口病	保育施設	1 件

※令和 8 年 8 月 28 日現在の情報により作成しています。

※全数把握疾患は発生届を受理した件数です。発生届は、診断した医師が最寄りの保健所（医療機関の管轄保健所）に届け出ることであります。よって、届出数は区内患者数と一致しないことがあります。

※定点あたり報告数とは、1 週間に一つの定点（医療機関）あたり何人の患者の報告があったかを表す数値です。報告数の合計÷定点観測所数＝定点あたり報告数(人/定点)です。流行状況の把握、比較をする場合に有効です。板橋区内では、小児科定点 10 か所、内科定点 6 か所、眼科定点 2 か所、性感染症定点 2 か所、基幹定点 1 か所、疑似症単独定点 2 か所が指定届出機関（定点医療機関）として指定されています。

※令和 5 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の 5 類感染症に移行しました。同日以降は本報でも定点把握疾患として掲載しています。

※令和 7 年第 15 週から定点把握対象疾患に急性呼吸器感染症（ARI）が追加されました。

板橋区保健所 予防対策課 感染症対策係